

令和7年第7回清瀬市教育委員会定例会会議録

令和7年第7回清瀬市教育委員会定例会が令和7年7月24日（木）午前10時30分に招集された。出席委員、議事の大要は次のとおり。

1 日 時 令和7年7月24日（水）午前10時30分

2 場 所 庁議室

3 付議案件 別紙議事日程のとおり

4 出席委員 坂田篤（教育長）

宮川保之（教育長職務代理者）

尾崎啓子（委員）

鈴木美紀（委員）

中村清人（委員）

5 事務局 南澤志公（教育部長）

大島伸二（教育部参事兼教育指導課長）

大野英武（教育企画課長）

宮野将史（教育指導課教育支援担当課長兼統括指導主事）

古川百香（生涯学習スポーツ課副参事）

山口由希（図書館長）

横井路彦（指導主事）

久保淳（指導主事）

6 書記 鈴木和也（教育企画課主任）

令和7年第7回清瀬市教育委員会定例会

令和7年7月24日（木）

庁議室（清瀬市役所本庁3階）

定例会

日程第1 会議録署名委員の指名（鈴木委員）

日程第2 教育長報告

日程第3 教育委員報告

日程第4 報告事項1 第1回 小中連携教育合同研修会について 教育指導課長

日程第5 報告事項2 フレンドルームのハートフルフレンドについて 教育指導課教育支援担当課長

その他

議事の日程並びに議事の大要並びに議決事項

開会

坂田教育長が開会を宣言

日程第 1 会議録署名委員の指名（鈴木委員）

鈴木委員を指名

日程第 2 教育長報告

坂田教育長 7月5日に清瀬子ども大学のアニメーションの部が行われた。7名の参加があった。今後も新しい講座を行っていく予定である。

7月8日に教育委員会A訪問で清瀬第三中学校へ訪問した。生徒たちが全体的に落ち着いてきている印象を受けた。教員が生徒たちに丁寧に関係性を作っているためだと考えている。しかし、授業改善へと繋がっていない点があると感じた。狙いを明示した授業展開やICT機器の活用に課題があると思う。

7月16日に教育委員会B訪問で清瀬小学校へ訪問した。実験的な試みで特設単元の算数の授業を行っていたところが印象的だった。改善点はあるが、非常に緻密な指導案で学術的な分析も行われており、今後が期待できる内容であった。清瀬小学校の教員の学ぼうという意欲が高いと感じた。

7月22日に清瀬子ども大学の理科の部が行われた。国も理系分野での女性の活躍推進を行っているが、今回の事業には女子児童の参加もあり、義務教育段階での理系科目に対する関心等に男女の大きな差は感じられない。どの段階で男女差が出てくるかも見極めて対応をしていく必要があると思う。

7月23日に外部評価委員の方と点検評価のヒアリングを行った。目標設定や評価指標に関して非常に厳しいご意見をいただいた。事業の目的に合わせて評価指標を設定するべきであるとご指摘いただき、次回の点検評価では改善を行う。

日程第 3 教育委員報告

中村委員 特になし

尾崎委員 6月27日に谷口校長によるセミナーに参加した。テーマが命の教育であり、担当の先生によるプレゼン形式で始まった経緯や具体的な内容の発表でとても参考になった。

鈴木委員 6月27日と7月16日に清瀬市長期総合計画策定審議会へ出席した。基本構想の文言について、20名近くの委員の意見をまとめながら具体的で分かりやすい内容になるように議論を行った。

7月8日に教育委員会A訪問で清瀬第三中学校へ午後のみ訪問した。学校として三中スタンダードが浸透しているが、授業改善は進んでいないという自己評価であったので、何か授業改善にもつながるような内容にしていけるような工夫が必要であり、そのためのアドバイスができればと考えている。

7月16日に教育委員会B訪問で清瀬小学校へ訪問した。若手教員にやる気があり、新しい試みを行うことは良かったと思うが、教育委員会B訪問での授業を行う前の授業研究が不充分を感じた。授業前の研究、授業、授業後の研究が3点セットで必要だと思う。

坂田教育長

研究授業を行う時に普通は研究授業を行った後に報告会を行うが、先に報告会を行ってから研究授業を行ったことがある。研究授業をどのような視点で見ていただきたいかを示してから研究授業を行うようにして、とても面白い試みであったが、子供が帰る前に報告会を行い、1クラスだけ残して研究授業を行うというやり方で学校運営としては大変であったと思う。

宮川職務代理者

中学生の国内派遣は人づくりへの投資であると思う。

清瀬第四中学校区の小中連携教育合同研修会に参加した。小中の考え方のずれが解消されている印象を受けた。事業の到達目標を示したのでそれに対して校長にどのように事業を進めていくのかを考えていただいても良いのではないかと思った。

7月8日に教育委員会A訪問で清瀬第三中学校へ訪問した。経営診断が必要であると感じた。学習指導では何を目標にこの単元を学ぶのかや授業を行うのかを示す必要があり、課題があると感じた。

7月16日に教育委員会B訪問で清瀬小学校へ訪問した。研究や生徒理解に一生懸命な教員だという印象だった。

7月23日に外部評価委員による点検評価のヒアリングを拝見した。指標の検討と設定に教育委員として協力できればと思っている。データマイニングで様々な人の意見やアンケートを語彙分析することでより具体的な指標を設定することも出来ると思う。

日程第 4 報告事項1 第1回 小中連携教育合同研修会について

大島教育指導課長 第1回小中連携教育合同研修会が行われた。第四中学校区グループは7月2日、他の4地区のグループは7月9日に行われた。

宮野教育支援担当課長 各中学校区グループの実態や地域の特色に合わせて取り組み内容を設定して実施している。授業研究や授業公開、合同での訓練等を計画に取り入れながら中学校区ごとに進めていく予定である。

教職員へ行ったアンケートでは昨年度の第2回小中連携教育合同研修会の際に行ったアンケートと比較して肯定的な回答が増加した。「小中連携の方向性について、理解することができた」という項目では、98%がとてもそう思うまたはそう思うと回答している。「教員同士の

交流が深まった」という項目では96%がとてもそう思うまたはそう思うと回答している。「「教員と児童・生徒」や「児童・生徒同士」の交流がふかまつた」という項目では87%がとてもそう思うまたはそう思うと回答している。アンケート結果については校長会へと連携してこれからどのように小中連携を進めていくかを検討していく。

宮川職務代理者
大島教育指導課長

小中連携教育の目的や到達目標について、報告の中で触れていただき、現時点でどこまで達成しているかも示してもらえると良いと思う。

小中連携教育は、小中学校のお互いの情報交換や交流を通して小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指すための様々な教育活動を行うことからスタートしている。いざれは小学校・中学校を通した9年間を見通した教育課程となることを目指している。現在、目指している内容としては小学校・中学校のお互いに行っている教育を理解し合うこととして、教員同士は知り合うことができてきており、今年度はさらに子供たちがお互いのことを知り合うことを目指している。形骸化しないように中学校区ごとの特徴を重要とし、教員が何を進めていきたいか考えさせ、まずはそこを進めていく。全体の目指す目的をの目指す目的を確かに理解しあえるためにも、1月の教育フォーラムで各中学校区の取り組みを共有する予定である。小中連携の推進委員会は別途開かれているので、各学校の校長や担当は情報共有を行っていく。

鈴木委員

小中連携教育の長期的、中期的、短期的な流れをそれぞれ理解していく必要があると思う。長期的、中期的、短期的な目標や流れを校長や推進委員が理解しているかどうかという点は目標を達成できるかどうかの大きな要素である。清瀬市として長期的な目標を示して全体の流れを少なくとも推進委員が理解するようにしていただければと思う。

各中学校区グループから課題があげられていたら教えて頂きたい。

取り組みの内容がぼんやりしてしまったや子供たちのために何が出来るのかを協議したいという意見があった。今後、学校の取り組みに反映できるようにしていきたい。

尾崎委員
宮野教育支援担当課長

肯定的な意見を増やしていくためには継続的な取り組みが重要になると思う。教員同士が知り合う機会は幼保小でもあると思うが、さらなる幼保小の連携も進めていければと思う。

中村委員

小中連携での内容が幼保小の連携にも通じる部分があると思う。小中連携を進めていく中で得られた内容を活かして、幼保小の連携も進めていければと考えている。

宮野教育支援担当課長

小中連携は学校改革や経営改革にも繋がり、成果が期待できる事業であると思う。それぞれの特色を大事にすることはとても大切であると思う。それぞれの課題を受けとめて、各中学校区グループの進捗状況についてその都度、説明頂ければと思う。

宮川職務代理者

どこに成果指標を置くかについては点検評価でも指摘があり、全体像を示して重点化をしないと全体像が見えずに目的が不明瞭な内容となっ

坂田教育長

てしまう。今回的小中連携教育合同研修会でのアンケート内容は小中連携全体の目的を示した内容ではなく現段階での目の前の内容についてとなっている。少なくとも小中連携の全体の目的をアンケートの中に示しておく必要があったと考えている。次年度以降には小中連携の全体的な目標に関する項目についても設定していきたい。

アンケート結果を示すのであれば同時に課題を示していく必要がある。次のアンケートには課題についての内容も報告するようにしたい。

日程第 5 報告事項 2 フレンドルームのハートフルフレンドについて

宮野教育支援 担当課長	ハートフルフレンドは清瀬市教育支援センターが行っている講座で、フレンドルームに通室中や不登校の生徒・児童に向けた内容となっている。不登校または不登校傾向のある生徒・児童の保護者へチラシの配布を行い、さらに、スクールソーシャルワーカーや子ども家庭支援センターにも協力していただき、学校とのつながりがなかなか持てていない家庭にも周知を行うようとする。
尾崎委員	実際の申し込み状況はどうだったのか。 講座を担当する方は教育支援センターの方なのか。 運営はどのように行われているのか。 子供たちの興味関心に沿った内容だと参加しやすいと思う。子供たちからの意見は集めているのか。
宮野教育支援 担当課長	5講座以上を実施して10名以上の参加があった。フレンドルームに通室中の子供以外の参加もあり、少しづつ規模を拡大している。 フレンドルームの職員と教育支援係のスクールソーシャルワーカーが講座を行っている。 講座内容は年に数回は入替を行なながら進める予定である。 各講座での子供からの意見を集めて講座の内容に反映させていきたいと思う。
尾崎委員	子供たちからの意見は講座に来ていない子供からも集められると良いと思う。 今後は学習や趣味の内容だけでなく、キャリア教育に関する内容も出来ると良いと思う。
鈴木委員	チラシの表面は日付や時間が記載されているが、裏面にある講座については具体的な日程等の記載がない。書ききれない内容についてはHPに記載してQRコードで読み取ると表示されるようにするなどの対応をして、参加する側が具体性をイメージして参加しやすいような工夫をしていただけると良いと思う。
宮野教育支援 担当課長	具体的な日程が示せるものは示し、個別に時間調整をして開催する講座もあるため、QRコード等を活用しながら分かりやすいようにする等の工夫をしながら広報を行うようにしたいと思う。

- 中村委員 目的はきずなづくりであり、居場所づくりにつながる良い取り組みであると思う。利用者からは何か感想は出ているか。
- 宮野教育支援担当課長 保護者の方から子供が参加して楽しかったと話していたという報告を受けている。
- 中村委員 きよせ幼稚園では不登校の中学生を受け入れたことがあり、その生徒が大人になり保育士になったということがあった。地域で協力してもらえる事業者を探して、子供たちの将来につながるようなプログラムを行えると良いと思う。
- 宮川職務代理者 チラシの文言も工夫することで広報の効果も変わってくると思う。

閉会

坂田教育長が閉会を宣言

閉会 午前11時56分

上記のとおり会議の顛末、大要を記し相違ないことを証する。

清瀬市教育委員会

教育長

教育委員